

2023 年度  
創発的研究支援事業 年次報告書

研究担当者	鈴木俊貴
研究機関名	東京大学
所属部署名	先端科学技術研究センター
役職名	准教授
研究課題名	動物言語学の創出と展開
研究実施期間	2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

### 研究成果の概要

昨年度に引き続き、動物言語学分野の創出を目指して研究課題を遂行した。まず、2023 年 4 月には東京大学先端科学技術研究センターにおいて世界初となる動物言語学分野の研究室を創設し、研究員や学生とともに研究を進める体制を整えた。また、動物言語学の枠組みに関する総説論文（Suzuki in press Annual Review of Ecology, Evolution, and Systematics）や本のチャプター（Oxford University Press および Cambridge University Press より出版予定）を計 3 編執筆し、受理された。2023 年 10 月には北海道大学で開催された国際音響生物学会（International Bioacoustic Congress）に国外の複数の研究者を招き、動物言語学に関するシンポジウムを開催した。

実証研究としては、長野県の山林において鳥類および哺乳類を対象に音声コミュニケーションを支える言語機能に関して行動実験を展開した（本実験は 2022 年度からの継続）。

本年度内に公表した論文としては、鳥が翼をジェスチャーに用いることを発見した成果があげられる（Suzuki & Sugita 2024 Current Biology）。シジュウカラは翼を小刻みに動かすことで、つがい相手に先に巣に入るように促す。このジェスチャーには、恣意性（翼の動きとメッセージの関係に必然性がない）や象徴性（翼の動きが特定の意味を伝えている）、三項関係（発信者、受信者、巣の 3 つにより成立するコミュニケーション）などヒトの言語と類似の特徴が認められ、言語の進化や起源を紐解く上でも重要な知見になると期待される。従来の進化言語学では、ジェスチャーは二足で立つことのできるヒトや類人猿に特有であると考えられてきた背景があり、鳥類においてジェスチャーを発見した本研究は国内外のメディアにおいて大きく報じられた。

動物言語学分野を社会一般にも広く普及するため、一般向けの講演会、テレビ出演、ラジオ出演、一般書籍の執筆などのアウトリーチ活動も積極的に行った。